

光陰似箭

「腺ペスト対策——ネズミを捕れ、ペストを防げ、猫を飼え」——1909年の『上海租界工部局公報』より

(神奈川大学) 孫 安石

ここ一年ほどのマスコミ各社の報道は、コロナ禍の拡散と米・中の対立、そして、コンピューターの日進月歩で進歩する技術革新を伝える記事で埋め尽くされ、巷にはいつの間にか公衆衛生の専門家、国際政治の評論家、そして、IT専門家で溢れているかのような体をしている。

これらの報道の中でも、人の命に関わるコロナ禍の対策として「手洗い」と「マスク」の着用が繰り返し強調されているのを見てみると、ほぼ110年前の上海で「腺ペスト」(bubonic plague)の予防のために*The Municipal Gazette* (『上海租界工部局公報』)が、「Plague Prevention-No rats, No Plague, Keep Cats」(腺ペスト対策——ネズミを捕れ、ペストを防げ、猫を飼え)という一連の記事を掲載して一大キャンペーンを張ったことを思い出さずにはいられなかった。イギリスで始まったとされる第1次産業革命から第4次産業革命が叫ばれている現在においても、疫病に対する人間の対応は所詮、「猫」を飼ったり、「マスク」をしたりするくらいしか進んでいないことをまざまざと見せつけられたような気がしたからである。

しかし、以上のように書いただけでは何のことかさっぱり分からないかもしれないので、以下、若干の補足説明をしておきたい。

上海史研究において重要な英文資料はいくつかあるが、その中でも*The Minutes of the Shanghai Municipal Council* (『上海租界工部局 董事会會議録』, 1854~1943年, 14758ページ), *The Municipal Gazette* (『上海租界工部局公報』, 1908~1940年, 14824イメージ)は、上海の租界行政を牛耳った工部局が発行した公式記録として重要なものである。ところが、これらの資料はいまやデータペー

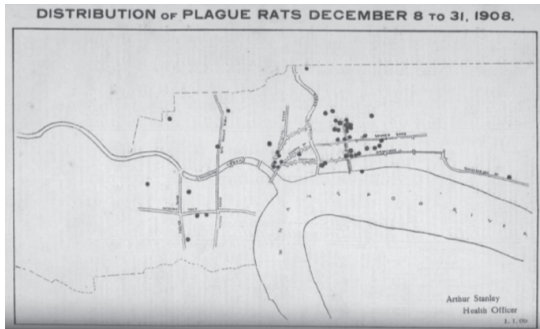
スとして販売されており、筆者が務める神奈川大学図書館でも学内での利用に限られるが、すべての資料を閲覧することができる。全文検索機能は提供されていないので、ひたすら全文を読んでいく忍耐が求められるが、それを苦にしないのであれば、この分野に関心のある向きには、それこそ「宝箱」のような新しい資料に出会うには違いない。

これらの資料の中には、上海に租界が設定された1854年7月から1943年12月まで、欧米人が主体になった租界行政に関するあらゆる内容——例えば、公衆衛生、交通と通信の設置、郵便、都市計画、ガス供給、街路灯の設置、人力車夫の管理、動物保護、警察の統計、予算と決算の報告等——が含まれている。

その中でも*The Municipal Gazette* (『上海租界工部局公報』)は、租界当局が欧米の居留民に各種の政策を広報していた重要な雑誌であり、上海史研究に携わる筆者もときどき関連する記事をめくることがあるが、上で紹介した「Plague Prevention-No rats, No Plague, Keep Cats」(腺ペスト対策——ネズミを捕れ、ペストを防げ、猫を飼え)の記事は、この*The Municipal Gazette*, No.56に掲載された「Plague Prevention」(腺ペストの防疫)の要点を記したものである。上海における公衆衛生の問題については、福土由紀『近代上海と公衆衛生——防疫の都市社会史』(御茶の水書房, 2010年)が詳しいので参考にしてほしいが、ここでは1909年1月前後の上海租界の腺ペストに関連する記事を一部、紹介することにしたい。

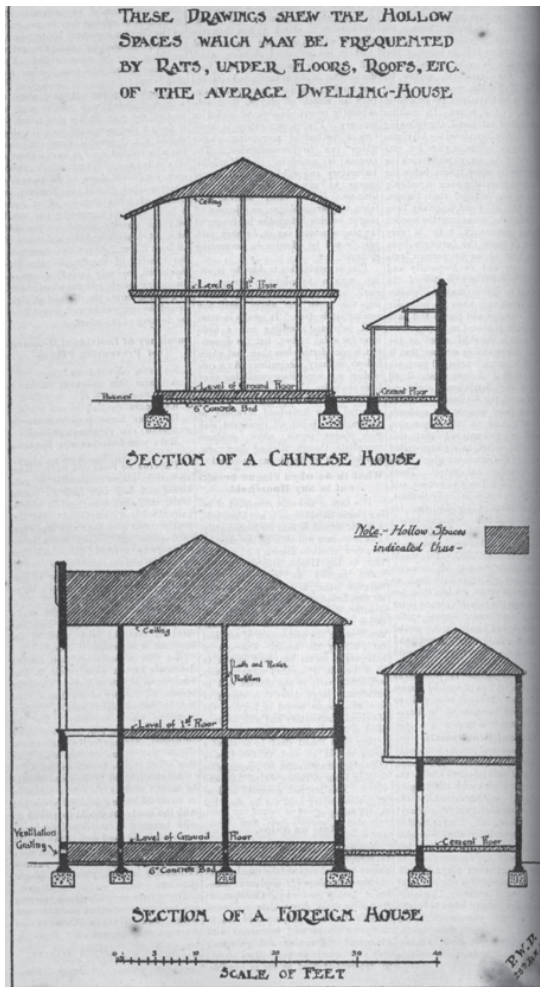
The Municipal Gazette, No.52 (1909年1月9日)の「Health Officer's Report for December」によれば、1908年冬の上海租界では全体としては良好な公衆衛生が保たれていたが、HONGKEW (虹口)地区で腺ペストが発生、1329名が感染し、49名が死亡するという流行の兆しが見え、租界当局は、①ネズミの駆除、②ネズミの棲家になっている家屋の消毒と撤去、③公衆衛生スタッフに対する腺

図 1 上海の腺ペスト感染のネズミ分布図
(1908年12月8日～31日)



出典：The Municipal Gazette, No.52, 1909年1月9日

図 2 ネズミの棲家になる空洞を示す図版（上が中国人住宅，下が外国人住宅）



出典：The Municipal Gazette, No.56, 1909年2月6日

ペストワクチンの接種を実施した（図 1 を参照）。

この記事以降、*The Municipal Gazette*には腺ペストに関連する記事が頻繁に登場し、No.53（1909年1月16日）には、腺ペストの防疫のためにフランス租界当局と中国当局（清朝の上海道台）にも協力体制が求められ、中国人が新築する建築物には1階部分にネズミの侵入を防ぐために煉瓦やコンクリートの処理を施すことにした法規を徹底する必要がある、と主張する記事が掲載され、また、腺ペストの被害が広がる中国人向けの対策として、腺ペストの防疫に関連する掲示物を中国語で用意し、口頭による啓蒙活動を行う必要があることも強く求めた。

そして、*The Municipal Gazette*, No.56（1909年2月6日）は、公衆衛生担当官アーサー・スタンレー（Arthur Stanley）による記事「Plague Prevention」（腺ペストの防疫）が特集として組まれ、①腺ペストの流行について、②上海と腺ペスト感染のネズミについて、③腺ペストの防疫状況、④腺ペストの駆除と猫、⑤ネズミ捕りの方法、⑥ネズミに強い家造り、⑦腺ペストの個人的な予防、⑧家族の中で腺ペストが発生したらどのように対処するのか、⑨ネズミは船からも運ばれてくる、という内容が全3頁にわたり掲載された。例えば、⑥ネズミに強い家造りの箇所では、ネズミの駆除は腺ペストの予防に、蚊の駆除はマラリアの予防に直結するとし、住宅ではネズミの棲家になる空洞を徹底して塞ぐことを図入りの説明を交えて例示し（図 2 を参照）、照明を設置したり、ライムモルタル（石灰モルタル）を施工することを勧めている。

そして、最後に腺ペストの予防のために個人が取り組むべき事項を次のように列挙している。

No rats, No Plague（ネズミを捕れ、腺ペストを防げ）

A house that is rat proof is plague proof（ネズミを駆除した家は腺ペストから安全である）

Keep Cats（猫を飼え）

Rid your house from rats also by Trapping and poisoning (ネズミ捕り器, または毒エサを使い家のネズミを駆除せよ)

このようなネズミ捕りは功を奏して, 1909年2月20日までには, 租界の東, 北, 中央, 西の各区では毒エサを使い, それぞれ5964匹, 2100匹, 1500匹, 782匹のネズミが (*The Municipal Gazette*, No.60, 1909年2月27日), そして1909年2月20日までには, それぞれ23159匹, 1550匹, 35500匹, 1734匹のネズミが (*The Municipal Gazette*, No.62,

1909年3月6日), 捕獲されたという。

ときは今からほぼ110年前, 辛亥革命の前なので, 上海の租界当局が相手にしていたのは清朝の上海道台である。捕獲したネズミが本当に5964匹だったのかをいま確認することはできないが, 同じ手法であれば, 新型コロナウイルス対策として「マスク」を付けている人と付けていない人の数も統計が取れるのだろうか, ということを考えながら, コロナ禍の収束を願っている毎日である。

◆ 研究会員制度のご案内 ◆

当研究所は, 中国研究者および広く中国に関心のある方々の参加と交流を目的とした個人向けの研究会員制度を設けております。中国研究所の趣旨をご理解の上, ご入会をご検討いただけると幸いです。

【年会費】 一般会員 9,600 円 学生会員 5,000 円

【会員特典】

- ・『中国研究月報』の無料配布 (月 1 部)
- ・附属図書館の閲覧料無料
- ・中国研究所主催の研究会などのご案内・参加料割引 (無料招待もあり)
- ・中国研究所発行物の割引購入

当研究所刊行の出版物 (『中国年鑑』など) を, 定価より 1 割引にて提供いたします。

そのほか, 詳細はお問合せください。

一般社団法人中国研究所

〒112 - 0012 東京都文京区大塚 6 - 22 - 18 電話:03 (3947) 8029 FAX:03 (3947) 8039

E-mail: c-chuken@tcn-catv.ne.jp ホームページ: <https://www.institute-of-chinese-affairs.com>